

放送大学
栃木同窓会会報

おおるり

発行: 放送大学栃木同窓会
編集: 会報編集委員会
責任者: 会長 須藤 國夫
発行日: 平成24年3月31日

会長あいさつ

会長 須藤 國夫

栃木同窓会は13年目を迎えます。

おかげさまで会員は114名になりました。同窓会活動も軌道に乗り、これを更に充実させていきたいと考えております。ところで、設立3年目にご入会いただいた会員の皆様には会費の更新期となりました。後日会費納入のご案内をお送りさせていただきますので継続加入をお願い致します。

さらなる隆盛を期して今年は加入会員の増加への取組みを強化して参ります。(新入会者および継続加入者)

そして会員相互の親睦を深める研修旅行や会報発行等の活動の充実を図っていく所存です。(今年の研修旅行は夏、秋の2回を計画しております。)

また栃木学習センターの在校生との交流(ハイキングやボウリング)や学生募集の協力等、学園との関係も深めていきたいと思ひます。

当会は小会ながら地域色のある同窓会活動の確立をめざしております。また同窓会連合会への参画も継続して参ります。そして今後とも皆様の会の活動への積極的参加とご指導ご協力をお願い申し上げます。

連合会のニュース

平成23年5月28日(土)に放送大学本部セミナーハウスの研修室で同窓会連合会の総会が開催されました。今回は全国37の各学習センター同窓会の会長さんが出席してまさに全国化された総会となりました。平成22年度活動実績、決算および平成23年度活動計画、予算が承認されました。

新会長に千葉の小野鐵雄さん、副会長に東京文京の斉藤成吾さんが選任されました。なお栃木の須藤会長が連合会理事に選任されました。

総会后、第2回同窓会会長会議が開催され、学生支援と同窓会活動についてや放送大学からの助成金について等の質疑、応答がなされました。

全国の同窓会は48ヶとなりました。

連合会と放送大学との共催の今年度の卒業・修了祝賀パーティは平成24年3月24日(土)に赤坂のホテルニューオータニ「鶴の間」で開催されました。今回は昨年の東日本大震災で中止となった平成22年度の卒業生、修了生も参加しての開催で総勢900名の盛大なパーティとなりました。栃木同窓会から3名の実行委員が参加して卒業生、修了生のおもてなしを行いました。

益子ボランティア体験

小山市 川畑 公子

4月1日朝、新聞の地方欄の記事が目についた。3月11日の東日本大震災により、益子焼の登り釜の大半が崩落してしまった。本日から「益子焼復興支援センター」を開設し、ボランティアを募集するので協力をお願いしたいという文面であった。私は職場であの地震を体験してからずっと、私にできる手伝いはないものかと常に頭から離れないまま今日に至っていた。早速電話をした。「若くはない女性にも手伝えることがありますか?」「いろんな仕事がありますので手伝っていただくことはあると思います」という言葉に背中を押されるように直ぐに支度を整えてセンターに向かった。センターに到着すると既に数人の方が集まっていた。事務局の方から作業内容の説明があった。登り窯を再構築するときには使えるように、崩れたレンガの目地をきれいに取り除くことが主な作業であるとのことだった。(釜の組み立ては専門の職人さんの仕事とのこと)

事務局の担当者が、ボランティアを受けたいと希望するA窯元を送りと届けてくれた。センターで準備してもらった皮製の作業手袋とゴーグル、マスクを持参する。私で役に立つかしらと不安を感じながら現場に到着すると既に数人の方々方が作業をしていた。震災により自宅待機中の会社員とその仲間、自分の釜も壊れてしまったが修復は急がないのでという益子焼き作家さんなど。その被害の甚大さ、自分のことはさておき他人を助けるその心の深さに驚き感動してしまった。

この日センターを通して参加したボランティア新米の私たち2人も直ぐに作業と話の輪に溶け込めた。地震から既に3週間が経過していて崩れたレンガは一箇所に積み、残った釜の土台が剥き出しになっていた。剥き出しになった釜の中は煤の欠片もなくレンガそのもののきれいなことに驚いた。煤で真っ黒と想像していたが、千数百度の高温で焼くために煤まで燃えてしまうという説明に納得。

少し役に立てる自身が持て今後も継続することにした。センターの担当者が受入先とボランティアの人数調整をするので、行き先はその都度違う。

今日はB窯元。「震災直後には崩れた釜を見られなかったし、ましてや片付ける気も起きなかった。暫く経って夫と2人で片付け始めたが、イライラしていつも喧嘩になり作業はなかなか進まなかった。思い切ってセンターに派遣をお願いした。今まで何回かボランティアの方に来ていただいて、作業が和やかな雰囲気進むこと、目に見える速さで片付いていくのでお願いをして本当によかったと思っている」と具体的な話を聞くと役に立てていることが実感でき嬉しかった。

C窯元さんは、「東北の方々と違い自分たちは生活の基盤を失った訳ではないのでセンターに派遣を希望することがなかなか気持ち的に難しかった」と話され、崩れた釜は手付かずの状態であった。まず崩れたレンガを脇に積み上げる作業から開始した。

レンガの間から傷ついたたくさんの陶器に混じり時には無傷の器も掘り出した。大震災を潜り抜けた宝物であり、強い生命力さえも感じてしまった。

6月末でセンターは閉鎖になった。何回も通っているうちに仲間ができた。現役引退後でテニス・登山・マリンスポーツに忙しい活動的なDさん、ボランティアの終了と期を同じくして仕事も派遣期間が終了となり、次はアルプスの山小屋に行くというEさん、彼の仕事は3交代勤務であったが、夜勤前後にも来ていた真面目な青年。ホテル勤務のFさんは長期の自宅待機中にずっと参加していた。3泊4日で参加し、終了後は初めての日光を観光して帰るという京都のおじさんなどなど多くの方から多くのことを学んだ。初めてのボランティア体験は人に役立てたよりも自分に学んだこと大きかった。動いてよかったとつくづく思う。

夏季研修旅行

宇都宮市 中川 雄道

平成23年6月26日(日)那須烏山市方面の研修旅行に参加しました。参加者は6名でした。9時半にJR宇都宮駅東口に集合し、会員の自家用車2台に分乗して出発しました。

まず太平寺を見学、創建西暦803年の古刹です。夫婦とも戒名が13文字もある立派なお墓には驚きました。次に竜門ふるさと民芸館を見学した後、竜門の滝を車で直接行くことのできる左岸から見学しました。水量が多く豪快な滝でした。島崎酒造のどうくつ貯蔵庫を見学しておみやげに長期熟成酒(古酒)を買いました。とても旨いお酒でした。

お昼に那珂川沿いで1番大きい観光ヤナひのきやで鮎の塩焼き定食を食べました。とてもおいしかったです。午後は山あげ会館を見学、祭りを再現するミニチュアコーナーで8分間の動く舞台はおもしろかったです。最後に烏山和紙会館を見学しました。記念に和紙製品の小物を買いました。宇都宮駅に戻り解散。とても楽しい1日でした。運転手さん御苦労さまでした。



各同窓会の会員数

	同窓会	会員数
北海道	同窓会	191名
旭川	同窓会	40名
青森	同窓会	29名
宮城	同窓会	200名
秋田	同窓会	123名
山形	同窓会	53名
茨城	同窓会	106名
栃木	同窓会	114名
群馬	同窓会	602名
埼玉	同窓会	1100名
千葉	同窓会	1160名
東京世田谷	同窓会	927名
東京文京	同窓会	1008名
東京足立	同窓会	246名
東京多摩	同窓会	190名
神奈川	同窓会	589名
新潟	同窓会	161名
富山	同窓会	70名
石川	同窓会	152名
福井	同窓会	72名
山梨	同窓会	124名
長野	同窓会	152名
岐阜	同窓会	20名
静岡	同窓会	142名

	同窓会	会員数
浜松	同窓会	49名
愛知	同窓会	63名
滋賀	同窓会	150名
京都	同窓会	139名
大阪	同窓会	374名
兵庫	同窓会	128名
奈良	同窓会	93名
和歌山	同窓会	42名
鳥取	同窓会	30名
岡山	同窓会	158名
広島	同窓会	89名
山口	同窓会	91名
徳島	同窓会	58名
香川	同窓会	120名
愛媛	同窓会	141名
高知	同窓会	77名
福岡	同窓会	212名
佐賀	同窓会	73名
長崎	同窓会	111名
熊本	同窓会	76名
大分	同窓会	50名
宮崎	同窓会	79名
鹿児島	同窓会	171名
沖縄	同窓会	95名
(48)	合計	10240名

総会のご案内

来たる平成24年6月17日(日)10:30から放送大学栃木同窓会の第13回総会を開催いたします。

議事は平成23年度活動報告及び決算と平成24年度活動計画及び予算と平成24、25年度の役員選出です。

総会は参加費無料です。是非ご出席ください。ご連絡は須藤まで。

場所は宇都宮東市民活動センター2階の第1学習室です。

(宇都宮市今泉3丁目5番1号 電話028-638-5784)

なお総会后、センター内のレストランで懇親会(昼食会:有料)を開催いたしますので是非ご参加ください。

編集後記

今回、会報の発行が遅れまして誠に申し訳ございません。次回は通常発行できるように努めます。

※放送大学では、大学の学生および大学院の学生を募集しています。